

H.A.L.'s Circle Review は私のオーディオのナビゲーター

H.A.L.'s Circle Review 通算 5,000 号おめでとうございます。

この日を迎えられることは、ひとえに川又様のご尽力の賜物です。心よりお祝い申し上げます。

私が H.A.L.'s Circle Review の購読を申し込ませていただきましたのが 2001 年 7 月 13 日でした。その時点ですでに 143 号に達しておられました。最初に受信した 144 号はタイムロード Chronos 体験イベントの案内でした。四半世紀前のことになります。懐かしいですね。

それから 5,000 号まで、H.A.L.'s Circle Review は私のオーディオ体験のナビゲーターでした。H.A.L.'s Circle Review 購読開始から四半世紀を経て、自分は少しでも進歩できただろうかと振り返ってみました。

自身のオーディオ歴ですが、高校生のときにどうしてもオーディオセットが欲しくなり、アルバイトをしたお金を握りしめて上京、秋葉原の量販店で購入したのが始まりでした。その後機材は変わらず、CD プレーヤーを購入することもなく 90 年代に突入、いよいよアナログディスクで新譜が入手できない時代になってしまいました。あることから、STUDER A730 を譲ってもらうことになり、A730 を活かすために機材のアップグレードを決心しました。

私にとってダイナミックオーディオは、ハイエンドオーディオファイル様たちの聖地で近寄りがたい存在でした。今はなきヤマギワ本店のオーディオコーナーは、買うつもりがなくても気軽に立ち寄れるところという印象を持っていました。そこで見た海外製品は、底知れぬ存在感に輝いていました。Ayer K-1、Marc Levinson No.331L、MartinLogan SL3 を手に入れ、引き返すことができない門をくぐってしまいました。

H.A.L.'s Circle Review 購読を申し込んだのは、ステレオサウンド 136 号（2000 年秋）で紹介された dCS Purcell を用いたアップサンプリング再生に興味を持ったからでした。川又様はすでに Esoteric P-0s、dCS Elgar を Chronos でクロック同期運転で再生するという最先端の試みを実践されていらっしゃることを知り、潤沢な資金はないけれども自分も挑戦してみたいという気持ちになりました。せっかく取り組むのであれば、川又様におすがりしようと思ひ 2001 年 10 月にローン組んで、dCS Purcell と Delius を注文するという暴挙に出ました。

その頃 dCS は IEEE1394 で Purcell と Delius をリンクし DSD アップサンプリングを実現するという時期にあり、ハードウェアもファームウェアも未完成の部分が残っていたようで、リンクが切断されたり、ノイズが出たりと苦労したことが思い出されます。翌年 P-0s with VUK-P0 が限定生産となったのを知り、調子に乗って注文してしまいました。若さは怖いもの知らずですね。

2005 年には German Physiks Troubadour 40、2009 年には Jeff Rowland Coherence 2 など、川又様には本当にお世話になりました。その後環境の変化で大型スピーカーや P-0s を設置することができなくなっていくつかの機材と大量の CD を手放し、淋しい気持ちになりましたが、現在は狭い部屋ながら Roon を核にした終（つい）のシステムで楽しませていただいております。

ハイビット/ハイサンプリングにチャレンジしてから四半世紀たち、音楽再生環境は劇的に変化しました。

改めて近年のオーディオの状況を見ますと、製品の高額化が特に著しく、手が届かないところに行ってしまったのが残念です。以前はちょっと無理して頑張れば手が届きそうなところで輝いていたハイエンドの星たちは、膨張する宇宙の 100 億光年離れた星雲のように、はるか彼方に遠ざかってしまったようです。

どんなに努力しても叶わない夢は絶望の裏返しですが、夢を持って生きることは大切です。一方スマートフォンとイヤホンでの音楽再生は手軽で便利なものですから、私もその恩恵に授かっていますが、次の世代の方々もそこで満足せず、本格的な音楽再生の世界に挑戦してほしいと思っています。時代が変わり音楽も多様な進化を続け、その音楽に共鳴する若い魂は今も昔も変わっていないと信じています。

H.A.L.'s Circle Review の配信が始まった頃には存在しなかった SNS が広く普及して、オーディオに関連するコミュニティがいくつも誕生しました。SNS の功罪を承知して、私はいくつかのコミュニティを覗くだけにしています。積極的に発信されている方々の意見を拝読しますと、実に多様な方々がいらっしゃいます。これまでのオーディオの常識はウソだらけという陰謀論派、特定メーカーよししょ派、古いものが絶対最高派、PC オーディオ最高派、お手ごろ懐古派、空気録音派などなど…海外も似たり寄ったりの様相です。ただの通りすがりですので、受け止めきれないほどの雑多な情報の洪水の中から、参考になる情報には感謝し、心がざわつくような情報からは遠ざかるようにしています。(日本でインターネットの商用利用が始まった 1993 年からネットビジネスに携わり、様々なサービスの勃興と衰亡を見てきました。ネットについていけない老人のぼやきではありませんよ…)

インターネット普及以前は同好の士が集って(そもそも嫌いな人は呼ばなかったし)、のんびりと音楽を聴きながら話し合い分かり合えたものが、おそらく 2 ちゃんねる以降ネットだけの関わりになってから、批難の応酬になっているものをよく見かけるようになり残念な気持ちです。好きな音楽のジャンルや好きなアーティストの話題はいい雰囲気のことが多いのですが、抽象的な「音」や機材の話題になるといきなり荒れ始めるのを見かけます。自分を含めて、オーディオを趣味にされている方々の高齢化が影響しているのか、白黒をはっきりさせないと気が済まない人が増えたように思います。オーディオは趣味の世界、どんな音が好きか嫌いかは人それぞれの心の内にあるものなので、答えを急がない、曖昧さを恐れない、寛容でいることが大切です。

SNS を利用すれば、よい反応と自身が反省する機会となる建設的な反対意見が得られる代わりに、継続する意欲を破壊する辛辣な攻撃も増えていきます。後者は攻撃者だけに満足をもたらし、書き手と善良な読者には不幸以外の何ももたらしません。

H.A.L.'s Circle Review は電子メール配信という、古典的な(失礼しました)手法で情報発信されているがゆえに、炎上や詐欺とは無縁の安心できる世界です。一方通行に近いものですが、反応してくれる人は必ずいます。SNS からの情報の激流にあらがうために、立ち止まって考えるためのメディアとして欠かせない存在です。

手が届かない価格帯の製品でも H.A.L.だからこそできるレビューは楽しみです。どんな素敵な音なのだろうと想像して、ワクワクします。H.A.L.'s Circle Review は私に夢を運んでくれます。

手に入れることができる人は羨ましいなあ、誰かプレゼントしてくれないかなあ…と邪（よこしま）な心がよぎります。私はそんな H.A.L.'s Circle Review が好きです。できれば手が届く（手が届きやすい）価格帯で「よいもの」をもっと紹介していただけると嬉しいです。

大変なご苦勞をされながら新しいものに挑戦し続け、実際に突き詰めて音を聴いて「よいものはよい」と、伝えることを大切にされている川又様に、改めて敬意を表します。

H.A.L.'s Circle Review が「5555」号を迎える日を楽しみにしております。